



大里

空御前と炭焼き窯跡

「うつぼ舟漂着譚」と呼ぶ日本の伝承がある。それはいずれも海の彼方から神が来る民話で、資料にした喜多路の論文によると、その話には、神である者が、本来厳重に密閉された乗物か容器に納まってやって来る、という共通点がある。

ほとんどの類話で来訪者は高貴な身分だが『内容』を分析するとそれは総て本質において「神」であるらしい。なお、この説で神の乗物は、太鼓・白や、南瓜・瓢箪など中身が空洞(うつろ)な植物であろうとされる。

大里の空御前(ウツロンゴゼ)も恐らく同系の民話で、遠い国の若い姫がウツロ舟に乗ってカザシタに漂着したが力尽き道端の岩にもたれて死んだとされる。その道は尾平瀬(A)にあり、若い女を祟るとされた。

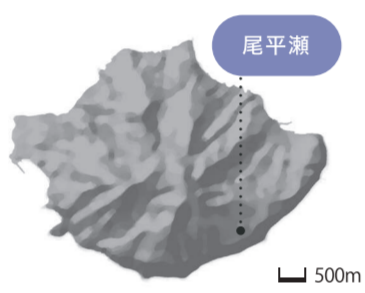
大正時代、尾平瀬に炭焼きの家族が住んだが奥さんの具合が悪くなり、姫が死んだ場所に祠を建てて姫を祀ると回復したという。

牧場の奥を下ると空御前を祀る岩が、そばには見事な炭焼き窯の跡(B)があり、民話と現実の世界が交わる神秘的な空間となっている。

思い出話

「尾平瀬はいま竹ばかりですが、昔は見晴らしが良く遠足に来ていました。この炭焼き窯は黒島で唯一崩れていない窯で、このまま風化させるのはもったいなく思います。」

大里地区 六〇代男性



日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1 ● 旧 5/3	2 ● 旧 5/4	3 ● 旧 5/5	4 ● 旧 5/6
5 ● 旧 5/7	6 ● 旧 5/8	7 ● 上弦 旧 5/9	8 ● 旧 5/10	9 ● 旧 5/11	10 ● 旧 5/12	11 ● 旧 5/13
12 ○ 旧 5/14	13 ○ 旧 5/15	14 ○ 満月 旧 5/16	15 ○ 旧 5/17	16 ○ 旧 5/18	17 ○ 旧 5/19	18 ○ 旧 5/20
19 ● 旧 5/21	20 ● 旧 5/22	21 ● 下弦 旧 5/23	22 ● 旧 5/24	23 ● 旧 5/25	24 ● 旧 5/26	25 ● 旧 5/27
26 ● 旧 5/28	27 ● 旧 5/29	28 ● 旧 5/30	29 ● 新月 旧 6/1	30 ● 旧 6/2	1	2